

認定師申請資料 書式 5：報告症例記録（ミニレポート）

【症例番号】 症例 1

【症例年齢】 9 歳 5 ヶ月（最終支援時）

【疾患名】 左側唇顎口蓋裂

【ミニレポート（500～600 字以内）】

①患児・家族との関係作り：ABG（顎裂骨移植術）期を控えた患児と母親に対し、外来待合室での声掛けから介入を開始した。プレイルームを活用して患児の緊張をほぐし、母親の不安を傾聴することで、心理的拒絶のない安心できる並行的な関係性を構築した。

②患児・家族への心理教育：術前検査や入院生活、術後の生活制限について、視覚的ツール（絵本や写真）を用いて患児の認知レベルに合わせた説明を行った。母親に対しても、この時期に生じやすい患児の一時的な退行現象や心理変化について事前に伝え、心の準備を促した。

③問題に対するケースフォーミュレーション：患児は手術への具体的なイメージが持てないことから過度な恐怖心を抱き、これが回避行動や母親への執着を強めていると分析。母親の不安が患児に伝播する悪循環が、術前適応を阻害していると考えた。

④介入と介入に対する評価：認知行動療法（CBT）をベースに、恐怖の原因を外在化するアプローチと、入院中の楽しみを主体的に見つけるリフレーミングを実施。結果、患児は「自分で決めて入院する」と主主体性を発揮し、術前適応は良好と評価された。

⑤再発予防と終結：退院後は学校生活への復帰を見守り、外見に対する自己意識の高まりが生じる思春期・移行期へのステップを見据えつつ、外来での定期的な並走体制を確認して一旦の区切りとした。